

令和2年度 総合問題 (第一部 商経学科) 解答例

問1 (40点)

【採点のポイント】

- ・適切な箇所を抜き出していること。

【解答例】

製品企画に力を入れず、問屋やメーカーに頼り、手間受けなど、その技術のみを提供していたため、製造機器の発達や海外の技術進歩によって品質に遜色ない製品が台頭してくると、価格面で太刀打ち出来なくなった。また、地元で生産し、地元で消費する小さい経済で回っていたものが、食品加工技術や物流の進化、大型ショッピングセンターの進出もあり、少し車を走らせれば全国のもものが購入できる状態になったため。(191字)

問2 (40点)

【採点のポイント】

- ・適切な箇所を抜き出していること。

【解答例】

地域とともに培ってきた技術を存分に活かし、地域の誇りとともにその製品を販売していくこと。自社製品をまだ知らない人に伝える以外に、地域を支えていくサービスに取りくむこと。事業者がどのような想いを持って、何のために働いているのかを伝えていき、その価値を最大化していくこと。(134字)

問3 (6点×5=30点)

【採点のポイント】

- ・正しい英文になるように適切な語句を選んでいること。

【解答】

ア	イ	ウ	エ	オ
social	value	company	at	that

問4 (30点)

【採点のポイント】

- ・グラフの数値から算出し、正しい答えを選んでいること。

【解答】

C

問5 (60点)

【採点のポイント】

- ・自分の考えを具体的に述べていること。
- ・論旨が明確であること。
- ・日本語表現が適切であること。

【解答例1】

資料2の通り、地方では働く人の大半が中小企業で働いている。また、地方の中小企業は資料1の筆者が指摘するように、商品開発や流通において不利な状況に置かれている。

私は、地方企業が発展するための具体的な取り組みとして、地域で培ってきた技術を活かして、大手メーカーや外部コンサルタントなどに頼らない商品企画を自分たちで行っていくことが必要だと考える。地元で採れる材料にこだわって、地元の消費者がより喜ぶ商品を企画・開発して売り出すといった取り組みである。例えば、農業が盛んな鹿児島では県内のそれぞれの地域で鹿児島ブランドと呼ばれる農産物がたくさんある。こうした食材を活用して新しい加工食品を企画・開発していくという取り組みが必要だと考える。

自分たちで商品開発を行っていく際に、農家だけではなかなか斬新な商品を開発できにくい可能性もある。そこで、農家と地元のお菓子メーカーや食品メーカーが共同で商品開発を行うことを提案したい。こうしたメーカーはこれまで多くの商品開発と販売を手掛けてきた経験や顧客の好みについての知識も豊富であると思うので、農家にとって力強い味方になれると思う。

質の高い食材を生産できる農家と、商品開発力を持つ地元の食品メーカーが協力することによって、本物志向の新しい商品を生み出す原動力になり、こうした取り組みを通じて、地方企業がもっと発展していける可能性が広がると考える。

## 【解答例 2】

資料 2 から分かるように、地方の経済は中小企業が中心であり、大都市の経済は大企業を中心となっている。中小企業は大企業に比べて知識集約的な企業が少なく、資料 1 にあるように地方で創造的な製品開発が発達しにくい状況が生まれ、その結果、地元企業の設立や経営を難しくしてきたと考えられる。

しかし、人工知能やデジタル・ネットワークが高度化する今日は、こうした地方の中小企業にとってのハンディキャップを克服できるチャンスである。どの地域で開発された製品でも、その地域だけの消費に限定されずインターネットを利用して全国的なニーズを生み出すことができる。また、このような技術を利用することで開発や生産と輸送のつながりが効率化できるため、消費者から遠い場所にいる企業も距離的なギャップを急速に縮める可能性もある。地元の自然や観光と結びついたオリジナルな商品開発を行い、地域の魅力を全国や世界に発信し、流通の時間やコストを節約することで、地方と消費者の距離が縮まれば、地方で生まれる商品が大都会の商品にも競争で打ち勝てる可能性がある。地方の中小企業は、もっと I T 技術の高度化に積極的に取り組むべきだ。

これに加えて、地方で人材を育成することも重要な取り組みだと思う。例えば、地方の大学の充実や進学率を上げること、地方の中小企業で働く労働者の給与を引き上げること、ベンチャー企業を育成するために自治体などが技術や資金面での支援をもっと積極的に行っていくことも大切だと考える。